

モニタリング結果報告書 (令和2年度)

1. 施設概要

施設名	地球市民かながわプラザ		
所在地	横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号		
サイトURL	https://www.earthplaza.jp/		
根拠条例	神奈川県立地球市民かながわプラザ条例		
設置目的(設置時期)	子供の豊かな感性をはぐくむとともに、県民の国際的理解並びに国際平和及び地球的規模の課題への認識を深めることにより地域から行動する意識を高め、併せて国際交流活動及び国際協力活動を支援するための施設。(条例施行日：平成10年1月1日)(開館日：平成10年2月1日)		
指定管理者名	(公社)青年海外協力協会		
指定期間	H28.4.1～R3.3.31 (2016年)(2021年)	施設所管課 (事務所)	国際課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>※新型コロナウイルス感染症が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p>
<p>利用者の満足度、収支状況はS評価となったが、利用状況がC評価となったため、3項目評価はB評価とした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により施設を休館し、また開館した期間中も利用者の外出自粛や感染症対策として事業をオンライン開催したことにより来館者数は減少したため、年間利用者数は135,536人(令和元年度の31.9%)と大幅に落ち込み、利用状況はC評価となった。</p> <p>しかし、1回目の緊急事態宣言(令和2年4月7日)に基づく休館中に、指定管理者において「県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策マニュアル」を策定して感染症対策を実施して開館するなど、施設の維持管理も適切に行った。また、提案に基づく展示学習事業・展示企画事業などの学習センター事業、ライブラリー事業・外国籍県民支援事業などの情報・相談センター事業、NPO等活動支援事業などのサポート・ネットワーク事業のプラザの3つの事業は、オンライン会議や映像配信等来館せずに参加できる方法で実施したり、密を避けるため複数回開催して利用者が分散して参加できるようにする等の工夫を凝らしながら適切に実施したことで、利用者から施設全体の印象について高い評価を得ている。</p> <p>事業のオンラインでの開催は、施設利用者の利用状況を好転させることには繋がらないものの、参加者にとって安全であり、他県や海外からの参加者がある等、施設や事業の認知度向上にも貢献した。今後も施設の管理運営をきめ細やかに行うとともに、創意工夫により様々な手法で事業を展開していくことを求めたい。</p>
<p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 新型コロナウイルス感染症の影響により休館するなどして、年間利用者数は135,536人(令和元年度の31.9%)と大幅に落ち込んだが、感染症対策を実施して開館するなど施設の維持管理も適切に行ったことから、施設の全体的な印象について施設利用者から高い評価を得ている。</p> <p>◆利用状況 令和2年4月1日から6月12日まで展示室を休館し、4月7日の緊急事態宣言を受けて4月9日から5月31日までは貸出施設も利用を停止して全館休館とした。また令和3年1月8日の2回目の緊急事態宣言を受けて1月12日から3月21日も映像ライブラリー、外国籍県民相談窓口を除き休館(既存予約の貸出施設のみ対応)とし、22日以降も原則休館(展示室は事前予約制を導入し再開)とした。開館した期間中も外出自粛や、感染症対策として事業をオンライン開催したことにより来館者数は減少し、年間利用者数は135,536人(令和元年度の31.9%)となった。</p> <p>◆利用者の満足度 第3四半期に利用者満足度調査(詳細アンケート)を実施し、上位2段階の回答割合が97.8%となったためS評価となった。「満足」と答えた割合が最も多く、高い評価を得られている。</p> <p>◆収支状況 利用者数の減により利用料金収入は13,513千円(前年比43.3%)となったが、収支差額は22,434千円のプラス(収支比109.12%)となったため、S評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 感染症対策としてラウンジでの飲食を制限したことに対し、飲食可能な場所の提供を求める意見が多かったことから、自主事業として飲食ラウンジを運営するなど要望への迅速な対応を図り、サービスの着実な向上につなげている。</p> <p>◆事故・不祥事等 ファンタジー展示室等にて子どもの怪我等があったが、事故発生に際し、応急措置を講じるなど適切に対応している。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はない。</p> <p>◆その他 事業のオンラインでの開催は、施設利用者の利用状況を好転させることには繋がらないものの、参加者にとって安全であり、他県や海外からの参加者がある等、施設や事業の認知度向上にも貢献した。今後も施設の管理運営をきめ細やかに行うとともに、創意工夫により様々な手法で事業を展開していくことを求めたい。</p>

3項目評価	S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう
B	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	無し	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	月1回2時間程度	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
(1) 学習センター事業 A 展示学習事業 子どもから大人まで幅広い年齢層にプラザの理念や趣旨を魅力的に伝え、家族連れや友達同士で楽しく学べる充実したプログラムを提供。	・覗いてみよう！世界の暮らし、やってみよう！世界の遊び等の展示学習プログラム ・地球市民意識の基礎となる豊かな感性を育てるための手遊び、絵本の読み聞かせ、工作プログラム等のファンタジープログラム（未就学園児）対象 ・合計57回（うち13回は動画配信で対応）実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響により施設を休館し、また開館した期間中も利用者の外出自粛や感染症対策として事業をオンライン開催したことにより来館者数は減少したため、年間利用者数は135,536人（令和元年度の31.9%）と大幅に落ち込んだ。しかし感染症対策を実施して開館し、オンライン会議や映像配信等来館せずに参加できる方法で実施したり、密を避けるため複数回開催して利用者が分散して参加できるようにする等の工夫を凝らしながら適切に実施したことで、利用者から施設全体の印象について高い評価を得ている。指定管理者が子どもから大人までの幅広い層を対象によく事業を企画し、施設の管理運営を適切に行ったことの積み重ねによるものであると受け止めている。（以下の欄について同じ。）
B 展示企画事業 世界の伝統文化、自然、歴史的遺産などに焦点を当て、楽しく学び、豊かな感性を育む企画展を開催。	年間を通じて5テーマ、会期延べ155日間(10,454人参加)の展示企画事業を実施。「ひとに話したくなる秘密のインド展」(2,224人)、あさのこうへい「あそぶミュージアム 旅する光の世界」(2,107人)、岩合光昭ミニ写真展「ねこのとけい」(5,209人)などを実施した。	
C 映像ホール事業 子どものための映画会を夏休み等長期休暇を利用し継続的に行いつつ、校外学習や大人を対象に映像ライブラリー所蔵のビデオ・DVDを活用した事業を展開。	年間延べ134日上映。月に1回から3回程度、週末の日中や祝日等に開発途上国を題材に扱った作品や、環境や貧困など地球規模の課題をテーマにした映画を上映するアースシアター、こども映画会、企画展に関連するテーマの作品の上映、校外学習受入れ時の作品上映を実施。	
D 交流交歓学習事業 小中学生から大人までを対象にした参加型ワークショップを実施。各テーマごとに年間4～6回のシリーズで事業展開。	交流交歓学習事業に参加する子どもたちが、地球市民の一人としての自覚に目覚めるようなワークショップ「世界の教室」・「世界の文化」を実施。在住外国人をゲストに招き、参加した子どもたちが相互交流を通じて互いの「共通点」と「違い」に気づき、相対的な世界観を養える内容とした。また、文化紹介プログラムとして、楽器、工作などのワークショップも実施した。年間12回(うち6回は動画配信で対応)。参加人数190人(動画の閲覧者は含まない)。	

<p>E 地球市民学習事業</p> <p>地球市民学習事業は、幅広い年齢層を対象に、世界的、社会的課題について広く周知し、地球に住む一人として、それらの解決に必要な素養を身に付けること、又は目指すことを目的とする。県民のより広く且つ深い課題の理解につながるよう、工夫したプログラムを年に6回実施。開催中の企画展示の内容とも関連付けをし、展示とともに講演によって、より理解を深める取組を行う。</p>	<p>トークイベント「旅音クロストーク「変わるインド、変わらないインド、その魅力」」等7回実施（うち6回は動画配信により対応）。</p>	
<p>F ビエンナーレ国際児童画展開催</p> <p>絵画を通じて、子どもたちの夢と創造力を育み、神奈川の子どもたちに世界を、世界の子どもたちに神奈川を紹介し、国際理解と国際交流の推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集 令和2年9月1日から11月30日まで ・応募総数 8,062点 ・一次審査 令和3年1月21、22日 ・二次審査 令和3年2月17日 	
<p>G 展示運営・展示ボランティアの運営</p> <p>プラザの設立目的である「こどもの豊かな感性の育成」、「地球市民意識の醸成」、「国際活動の支援」を達成するために常設展示室を良好に保ち、入館者へのサービスをボランティア活動等により充実させる。</p>	<p>常設展示室入館者(年間21,445人)に対する展示案内をはじめ、安全管理、展示室内の展示物の整理等を通して地球市民学習の場として活用される運営を行った。</p> <p>その他、国際平和展示室内「狭くなる地球」のデータ更新や、国際平和展示室の補完展示として「カティンの森事件～22,000人のポーランド人将校の行方」を実施（令和2年11月1日～令和3年3月21日 9,311人）した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示ボランティア登録者数57人 	
<p>H 校外学習の受入等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員等からの校外学習相談への対応 ・利用前後及び利用当日の学習指導案作り ・プラザ施設を活用した体験的な国際理解教育、平和教育プログラム等の実施等 ・学習資料等の作成など受入れ促進の実施 ・海外の途上国で活動した青年海外協力隊ボランティア体験談や国際理解等に関わるワークショップの実施提案 	<p>次代を担う子どもたちに世界の多様な文化、地球的規模の課題などへの認識を深めてもらうため、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校等からの校外学習の受入れを行った。</p> <p>年間総計17校 619人</p>	

<p>I その他、提案事業 ア アウトリーチ事業 ①神奈川県環境保全への理解の促進 ②国際理解教育出前講座 イ その他、館内実施事業等 ①館内インフォメーションツアー ②仮装deハロウィン ③キャンドルナイトinあーすぶらざ ④緑のカーテンプロジェクト ⑤清水一二写真展</p>	<p>ア アウトリーチ事業 ①神奈川県環境保全への理解の促進 令和2年10月4日に小菅ヶ谷北公園にて野外プログラムを実施（参加者15人）。 ②国際理解教育出前講座 県内教育機関等での出前講座（令和3年2月14日、1校） イ その他、館内実施事業等 ①館内インフォメーションツアー 館内施設やイベントをツアーやクイズ形式で知っていただき、国際理解、多文化理解につながる機会を提供（24回、参加者1,506人）。 ②仮装deハロウィン2020 商店街等と連携し、子どもたちと地域との交流の機会として仮装やパレードを実施（10月17～31日の5日間、参加者1,228人）。 ③キャンドルナイトinあーすぶらざ 国際平和について考えるきっかけとして開催し、キャンドルナイトとミニ野外シアターを実施した（令和2年12月15日、参加者1,032人）。 ④緑のカーテンプロジェクト 参加者を募っての種・苗植えは中止し、子どもたちが自宅にて緑のカーテンを実施できるよう、あさがおなどの植物の種の配布。 ⑤清水一二写真展「知ることが力になる」 国際的なスポーツ事業への興味関心を高める機会としパネル展示を実施した（令和3年3月22日～31日、参加者403人）。</p>	
<p>J インターンシップ/教員研修事業 プラザ事業に対する理解を深めてもらうため、高校生・大学生のインターンを受け入れ、職場体験の機会等を提供する。</p>	<p>・インターンシップ 6校22人、JICA協力隊派遣前特別訓練として3人のインターンシップを延べ422日間受入れ。 ・教員研修 5校9人の教員5年・10年次研修を延べ15日間実施。</p>	
<p>(2) 情報・相談センター事業 A ライブラリー事業 大人が地球市民意識を醸成し、多文化共生及び国際交流・協力活動を学ぶための図書や映像などの資料を揃え、共に、子どもが絵本や雑誌及び映像に親しむために工夫を加えたライブラリー運営を行う。</p>	<p>・利用者数 37,666人 ・図書の収集・貸出 蔵書数 46,745冊 貸出登録者数 20,378人 館外貸出数 7,555点 ・ビデオ・DVDの収集・視聴サービスの提供 所蔵数 2,599点 視聴本数 2,599本 視聴利用者数 1,383人 ・子どもコーナー 子ども向けに多言語読み聞かせなど開催 309人参加 ・その他、自宅で本を楽しんでもらうため予約貸出しシステムOPAC4の導入、ドライブスルー方式での貸出、「絵本の福袋」等を実施した。</p>	

<p>B 外国籍県民支援事業 これまでの事業運営を基本に、他の支援団体、民間団体との連携を十分に図り事業運営を行う。また、外国人住民の支援につながるような自主事業、共催事業を企画し実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍県民支援のための情報収集整理 ・外国籍県民相談事業(一般・法律) ①【相談窓口事業(3箇所、6言語)】 相談件数：一般1,313件(うち法律142件2箇所) ②相談機関連絡会 令和2年12月11日オンライン開催 ③研修会 全5回(うち4回オンライン開催)、参加者260人 ・教育相談事業(5言語) 相談件数：1,362件 ①相談ケース回議 毎月1回開催(オンライン開催) ②ネットワーク構築 帰国児童・生徒教育及び国際教室担当者連絡協議会等3回実施(それぞれ書面、オンライン、集合形式で開催)。 ・総合的な日本語学習等支援センター事業 ①教材・情報の収集、提供等 ②アウトリーチ支援活動(出前講座等6回開催 参加者356人) ③日本語学習支援等の団体ネットワーク 日本語教育支援者間のネットワークの構築と、定評がある日本語関連教材及び資料の展示・販売機会の提供として「日本語学習・支援者のための集い」を実施。令和2年12月19日オンライン開催、参加者数72人 	
<p>C 広報・情報発信事業 ・プラザ施設案内、各種事業や地球市民学習に役立つ情報を掲載した広報物の発行など(年3回機関紙発行、月2回程度のメルマガ、催し物の案内やチラシなどの作成及び配布)。 ・ホームページ運営など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページアクセス数年間230,808件 ・新聞、タウン誌等広報掲載135回 ・プラザ壁新聞(機関紙)年3回発行(A2判 3,500部/回) ・催事案内チラシ(月1回600部、館内用ポスターほか) ・広告(かながわ県民センター広告スペースへのポスター掲示、WEB広告) 	
<p>(3)サポート・ネットワーク事業 A NPO等活動支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO等が実施する企画・事業をサポートし、プラザの設立趣意に合致する事業に対し、活動場所の提供や広報・PR等を支援。 共催事業4件(参加者679人) ・NPO等専用の打合せ等のための無料スペースの提供 情報フォーラムスペース登録30団体(1,660人利用) 	
<p>B NPO等のための事務室運営事業 ・利用団体の活動状況の把握 ・利用団体の活動支援 ・新たな公募および選考</p>	<p>非営利で公益的な活動、とりわけ国際協力、国際交流、多文化共生を育むことを主な目的とした活動をする団体に、活動の場(共同の事務所スペース)を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居9団体 (事務室利用日数308日、利用1,183人) 	

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
中国残留邦人「しゃべり場」主催 帰国者の方とっしょに映画を楽しもう！	映画鑑賞会を令和2年12月24日開催、参加者数54人
飲食用ラウンジの運営	館内のレストランが閉店したことに伴い利用者の利便性向上のためレストラン客席を飲食用ラウンジとして運営。令和2年12月22日開始。

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

5. 利用状況

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和2年度
利用者数※	461,004	425,518	135,536
対前年度比		92.3%	31.9%
目標値	400,000	462,000	463,000
目標達成率	115.3%	92.1%	29.3%

目標値の設定根拠： かながわグランドデザイン

利用者数の算出方法（対象）： 常設展示室観覧券発券枚数、貸出施設利用申込人数（貸出施設のうち映像ホール等を事業で利用する場合は入場者数）、図書・映像資料貸出等処理件数、フォーラム等定点観測（4～6回/日）、NPO等のための事務室（利用簿の利用者数）。

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響と対応状況】 （※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

令和2年3月から引き続き4月1日から6月12日まで展示室を休館し、4月7日の緊急事態宣言を受けて4月9日から5月31日までは貸出施設も利用を停止して全館休館とした。このため、令和元年4月から6月までの利用者数は119,334人であったが、令和2年4月から6月の利用者数はわずか5,666人に止まった。

また令和3年1月8日の2回目の緊急事態宣言を受けて1月12日から3月21日も映像ライブラリー、外国籍県民相談窓口を除き休館（既存予約の貸出施設のみ対応）とし、22日以降も原則休館（展示室は事前予約制を導入し再開）とした。令和2年1月から3月までの利用者数は67,733人（うち3月は感染症の拡大を受けて展示室等を休館したため4,231人）だったが、令和3年1月から3月の利用者数は21,415人に止まった。

開館した期間中も外出自粛や、感染症対策として事業をオンライン開催したことにより来館者数は減少し、年間利用者数は135,536人（令和元年度の31.9%）となった。

②令和2年度の対応状況

- 令和2年5月27日付で指定管理者において「県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策マニュアル」を策定。

- 令和2年6月1日以降、施設の消毒や利用者数を制限する等の感染症対策を実施し、各施設を段階的に開館。

- その後、密を避けるため事業をオンライン開催、動画配信に替えて実施したり、密を避けるために1日複数回開催する等して利用者の安全に配慮した事業運営を実施。

- 2回目の緊急事態宣言を受けて1月12日から3月21日は、外国籍県民相談窓口、学びの場としての映像ライブラリー（図書室）以外を休館

- 令和3年3月22日以降は施設を原則休館とし、展示室は事前予約制にて開館、貸出施設は既存予約分のみ対応している。

6. 利用者の満足度

評価	<<評価の目安>> 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	第3四半期に実施。来館者や事業参加者にアンケート用紙を配布。	概ね高い評価を得ている。指定管理者が子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とする事業実施に配慮したことや適切な施設の管理運営に努めたことが評価されたものと思われる。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容	施設の全体的な評価		
実施した調査の配布方法	アンケート用紙の設置、対面による調査、事業実施時の参加者への調査	回収数/配布数	281 / =
配布(サンプル)対象	施設利用者、事業参加者		

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	161	109	6	0	276	
回答率	58.3%	39.5%	2.2%	0.0%		
前年度の回答数	233	213	13	0	459	
前年度回答率	50.8%	46.4%	2.8%	0.0%		
回答率の対前年度比	114.9%	85.1%	76.8%			

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

【新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響と対応状況】 (※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症が利用者満足度に与えた影響 —
②令和2年度の対応状況 —

7. 収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
S	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳			支出	収支差額
前々年度	当初予算	246,860	28,392	700	物品販売450 映画上映200 有料ワーク ショップ50	275,952	275,952	0	
	決算	246,860	34,093	4,093	物品販売 2436 有料企画展 1534 出前講座な ど123	285,046	257,282	27,764	110.79%
前年度	当初予算	249,949	28,500	700	物品販売450 映画上映200 有料ワーク ショップ50	279,149	279,149	0	
	決算	249,949	31,171	4,404	物品販売 2283 企画展示事 業1990 出前講座謝 金130	285,524	260,499	25,025	109.61%
令和2年度	当初予算	251,755	28,608	700	物品販売450 映画上映200 有料ワーク ショップ50	281,063	281,063	0	
	決算	251,708	13,513	3,071	物品販売 2325 企画展示事 業487 出前講座謝 金183 映画上映76	268,292	245,858	22,434	109.12%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和2年度 /

前年度 /

前々年度 /

<備考>

【新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※新型コロナウイルス感染症の影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症が収支状況に与えた影響

—

②令和2年度の対応状況

—

8. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	件		
	件		
職員対応	件		
	件		
事業内容	件		
	件		
その他	件		
	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
6月28日	①発生場所は5階こどもの国際理解展示室内のメイン階段。4歳の幼児(女の子)が階段を登ろうと小走りで向かった所、手すりの柱に頭をぶつけた。受付に常備してある冷却材（ヒヤロン）を受付スタッフより渡し、患部を冷やした。その後学習課職員が1階の救護室に案内、冷却材を交換するなど応急手当を行った。保護者、本人の希望で救急車は呼ばずに様子を見た。20分ほど救護室で安静にしたところ、痛みも引き、特に異常も見られなかった。 ②月次の現場モニタリングにおいて報告（7月9日）。 ③～⑥該当なし
3月13日	①創作スタジオにてダンスのレッスン中に生徒の妹が転倒して頭を打ち、父親が抱えて事務所に来訪。妹は声を出して泣いている状態が続くので冷却材を交付して救護室にて様子を見ることになった。その後、父親がご自身で脳神経外科へ連れていくこととなり、専門のクリニックで診察を受けることになった。クリニックに同行したレッスンの講師より連絡を受け、ケガ等がなかったとの報告を受ける。 ②月次の現場モニタリングにおいて報告（4月12日）。 ③レッスンの講師に事故発生時の状況を確認した。 「音楽をかけ走る→止まる」の動作を繰り返すリトミックをやっていた。その一環でラミネートした絵を、床に広げたものを取りに行くというプログラムを行った。妹さんがそのラミネートを足で踏んでしまい、横に転倒して、地面に頭を打ったとのこと。貸室の受付スタッフが今後同種の貸出しがある場合は、カギの受け渡し時に注意を促すこととした。 ④～⑥該当なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。